

薬草園かわらばん

皆さ～んちょっと覗いてみませんか？
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2018年
4月12日
第38号



ハナズオウ (マメ科)

門を入ってすぐ右側に鮮やかな紅紫色の花の木が目に入ります。名の由来になった「スオウ」は、インド地方原産の黄色の五弁花が咲く別の木本植物で、スオウの木の芯を煎じて作る染料（色素成分ブラジリンを含む）に似た色の花を咲かすところから、ハナズオウと名付けられました。

スオウの木の芯は、蘇木（ソボク）という生薬となり、漢方薬である通導散に止血、活血作用を期待して配合されます。一方、ハナズオウには、薬用に用いたという記録はいつさいありません。なお、『本草綱目啓蒙』によると、スオウは日本にもともと無く、多くを蠻国（昔の外国を卑下した語）から輸入したとの記述もあります。色を楽しみ古き時代の着物に思いめぐらしましょう。

ハナミズキ (ミズキ科)

園内、管理棟の前に咲いています。別名を「アメリカヤマボウシ」といい、北米原産で、1912年に東京都からアメリカに贈ったサクラの返礼として贈られた木です。華やかさと紅葉や赤い実の美しさで街路樹としても人気があります。なお、実は苦くて不味いので食べられません。

近縁の日本産のヤマボウシは、秋に熟す実をそのまま、あるいはホワイトリカーに漬けた果実酒として、滋養強壮に用います。なおヤマボウシはハナミズキより約1ヶ月後に咲きます。

今、こんな草木がたのしめます
待ってまーす！！